

今年は梅雨入りした途端に猛暑となり、これまでに経験のないような天候となっています。ここから厳しい夏となる予測もありますが、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。

我が家の 2 歳の息子は、最近よく歌を歌うようになりました。歌っているのはたいてい、果物や動物が登場するごきげんな童謡たち。そんな息子の持ち曲に、ある日突然なんとも渋い一曲が仲間入りしました。

それが、1960 年代に一世を風靡したザ・タイガースの「花の首飾り」です。ある日、レコード屋さんの 100 円コーナーで、この曲が収録された 7 インチ盤を見つけました。ザ・タイガースは、私の母が若い頃に好きだったグループで、私が子どもの頃にも家でよく流れていた思い出のバンド。そのジャケットもなんだか見覚えがあり、懐かしさに惹かれて、迷わず手に取りました。家で再生すると、あの懐かしいメロディが部屋いっぱいに広がり、当時の記憶がふっとよみがえってきます。しみじみと聴いていた私の前で、息子はじっとレコードプレーヤーを見つめていました。

数日後のこと。息子が突然、「花咲く娘たちは〜♪」とうろ覚えながらも楽しそうに口ずさみはじめたのです。それからというもの、レコードを取り出し、そっと針を下ろす再生の儀式にも興味津々。真似してやってみたがるようになり、「もう一回！」とリピートをせがまれる日々。母も、「孫がタイガースを口ずさむ日が来るなんて」とぼつり。1 枚のレコードをきっかけに、親子三代で同じ曲を共有することになるとは思いませんでした。スマートフォンで手軽に音楽が聴ける便利な時代ですが、レコードを取り出し、セットし、針をそっと落としてはじめて音が出る。この一連の手間のなかに、なんとも言えない楽しさが宿っています。あるレコード屋の店員さんがこんなことを言っていました。「レコードを聴くのは、茶室で抹茶を点てる所作に似ているですよ」と。確かにその通りで、茶道具を使って丁寧に点てる時間が、お茶の味わいを深めてくれるように、レコードにもアナログならではの豊かさがありません。それはきっと、クラフトキットを作る時間にも似ていますよね。手を動かして、少しずつ形にしていく工程。完成するまでじっくり付き合う時間には、効率とは別の「かけがえのなさ」があります。くるくる回るレコードと、鼻歌を歌う息子。毎日「花咲く娘たち」に囲まれて生活中です。

さて、今回のお知らせでは押絵の最大サイズである F6 号に絢爛豪華な牡丹と孔雀の絵柄が登場。きめこみパッチワークにも、ころころとした姿が人気のフクロウが趣ある和の彩りで新発売です。また、2026 年えとシリーズも押絵の全商品が出揃い、毎年贈り物に大好評の木目込み人形も新登場しました。これからの暑い季節、涼しいお部屋でじっくりと手作りをお楽しみいただけるラインナップです。

また、お盆やお彼岸に向けてお供えにもご活用いただけるアイテムもご紹介しております。大切な方へ心を込めて作ったり、共に手作りをしてみませんか？そうして過ごす時間や出来上がる作品は、自分も周りも心癒す特別なものとなります。この機会に豊かな手作りライフをお楽しみください。(山)

